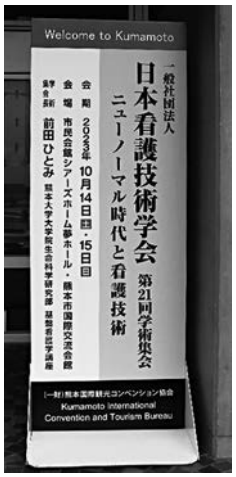
「日本看護技術学会 第21回学術集会」の開催報告とお礼

熊本大学大学院生命科学研究部
教授　前田ひとみ
（日本看護技術学会第21回学術集会　学術集会長）

2023年10月14日15日に、『ニューノーマル時代の看護技術』をメインテーマに、日本看護技術学会第21回学術集会を、熊本市民会館と熊本市交際交流会館で開催いたしました。本学術集会開催にあたり、ご支援いただきました肥後医育会振興会の皆様に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。



本学会は看護職者が行っている様々な看護技術について、その効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにすること、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術を開発することを目指しています。Covid-19は五類感染症にはなったものの、まだまだ多くの新規感染者が報告される中でしたが、４年ぶりに対面のみで開催しました。どのくらい演題が集まるか心配しましたが、キーセッション７題、交流セッション14題、卒業研究交流セッション５題、口演40題、示説17題、ランチョンセミナー３題のご応募をいただきました。

特別講演は、考古学者で熊本大学大学院人文社会科学研究部教授の小畑弘己先生に、「X 線 CT 導入による考古学的史観の変革－土器中のタネやムシが語る新たな世界－」というテーマでご登壇いただきました。小畑先生は土器を作るときに練りこまれた種や昆虫を、X線機器を使って検出するという、まさに文理融合による新たな研究技法を編み出されています。ご研究によって新たになった縄文時代の人々の生活や暮らしは、生活を見る看護実践家や研究者にとってとても興味深いものでした。

Covid-19に加え、インフルエンザも流行し始め、感染予防の観点から学術集会参加を断念された会員の方も多く、残念ながら参加者は426名と目標には及びませんでした。しかし、会場では活発な討論が繰り広げられ、「対面で意見交換することの必要性を改めて実感した」、「看護技術の探求方法や教育方法がよくわかった」というご感想をたくさんいただきました。コロナ禍による社会の大きな変化によって、これまでの常識が通用しなくなり、新たな常識へと考え方の変更を求められる時代となってきましたが、キーセッションや対面での討論を通して、コロナ禍での看護技術、with コロナでの看護を振り返り、看護技術について再考する機会にもなりました。学術集会へのアンケートの結果でも８割の方が「満足」、「研究や仕事に役立つ情報を得られた」と回答された方が９割という嬉しい評価をいただきましたことをご報告させていただきます。一方で、会場に託児を準備しましたが、それでも育児中の方々は会場に行くことが難しいというご意見もいただきました。ニューノーマル時代の学術集会では、ICT を活用した学術集会運営の工夫が課題として示されました。

両日ともに、会場の外ではお祭りが開催されており、夜は初の熊本城長塀でのプロジェクションマッピングもありました。ご参加いただいた皆様には、学術集会に加え、熊本の魅力もたっぷりとご堪能いただけたのではないかと思います。

第23回九州高気圧環境医学会 報　告

熊本市民病院救急科・集中治療科
部長　原田　正公
（第23回九州高気圧環境医学会　会長）

2023年８月26日（土）に、市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市民会館）にて第23回九州高気圧環境医学会を開催いたしました。本学術集会は、高気圧酸素医学、潜水医学などの高気圧環境医学に携わっている医療従事者などが参加する学会でございます。新型コロナウイルス感染症が５類感染症になり、他の多くの学術集会が現地開催を採用するようになりましたが、